

先月（7月）の活動

日本語教室 7/4(M), 7/11, 7/25 (3回)
 7/16 (木) 滋賀県国際交流推進協議会 (恩地)
 7/25 (土) オリーブHP内容打ち合わせ
 (田中三、恩地、小春、内田栄、豊村)
 7/30 (木) 第二回キラリエくさつラウンドテーブル
 (内田栄)

今月（8月）の活動予定

日本語教室 8/1(M), 8/8, 8/22, 8/29 (4回)
 8/29はオリーブ内の日本語発表会です。
 8/20 (木) 草津市多文化共生推進懇話会
 (恩地)

参加人数（7月）

	7/4	7/11	7/25
学習者	17	20	15
スタッフ	22	22	20

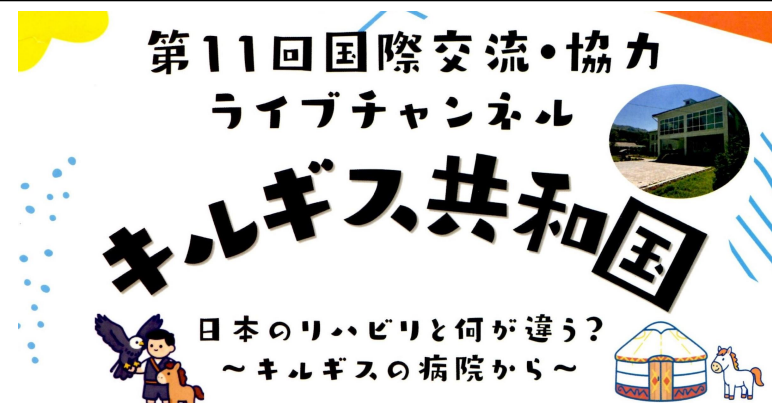
会員の動き

なし



いつもより山盛り飯の原爆忌

ケンジさんの俳句 八月(葉月)
 中村健治



第11回 国際交流・協力ライブチャンネル【キルギス共和国編】を開催します！参加無料です。

2026年9月12日（土） 16:00～17:30 オンライン参加

今回は、中央アジアに位置する『キルギス共和国』とオンラインでつなぎ、JICA海外協力隊の伊吹隆聖さん（理学療法士）をゲストにお招きします。

文化や生活の様子など、キルギスの魅力をご紹介します。

詳細や申込みは
 下記あるいは右のQRコードから

<https://www.s-i-a.or.jp/events/1034>

申込み期限：9月7日まで

主催：滋賀県国際協会



編集後記：まだまだ暑さが続きますね。

〈ほらごらん猛暑日なんか作るから〉中原幸子 某日、新聞のコラムにこの句が引用され印象に残りました。気象庁が2007年に気温35℃以上の日を指す予報用語として制定したのですが、こんな用語作るからますます暑い日が増えたんだ、と発した言葉通りの結果が現れる、言霊（ことだま）信仰が頭をよぎります。もちろん、猛暑日の発生が先なんですが、言葉の持つ印象は大きい。

今年からはさらに「酷暑日」まで制定されネガティブな気分が増幅されます。昼間は屋外行動を控え暑さが過ぎる時期を待つしかなさそう。皆様もどうぞご自愛下さい。（豊村）



オリーブ通信

<http://www.ne.jp/asahi/olive/kusatsu/>

2026年8月号
 2026.08.22発行
 第292号

新しい仲間を紹介します。



カラン・シン・チャリセ
 (ネパール)



ヴォン・ティ・ハン
 (ベトナム)



タンサマイ・メッキー
 (ラオス)

中川先生のへんてこ日本語 10時までやってます

190



「10時までやってます」とか、「この番組は10時までお送りしています」とかいう言葉をテレビやラジオでよく耳にする。これは「9時59分59秒まで・・・」とするのが正しいのではないかなんて、偏屈なことを考えている。10時になれば時報が鳴るなどして、次の番組が始まってしまふ。

「2026年までここに住んでいました」とか「展示は、3月までやってます」「10歳まで習っていました」の場合は、「2026年」や「3月」「10歳」が最終時点で、次の年月は問題にしないのに、「10時まで・・・」の場合は、「10時」は最終時点にならず、次のアクションの開始時点となる。それは、年月はまとまりのある区切りとして示せるのに対して、連綿として流れる時間は、まとまりとして提示できないためだろうと思われ、帰着点となる指標として「10時」が選ばれているためである。

しかしながら同じ時刻でも、「店は毎日10時までやってます」や「10時まで待っています」の場合は、10時になるのを見届けている。

「彼が来るまで待つ」「雨が上がるまでここで過ごそう」のような「動詞＋まで」の例でも、動詞で表わされる動作が最終時点となる。

「先着100名まで受け付け」「駅まで歩いて行った」の「名詞＋まで」でも、名詞で表わされる地点がゴールである。

放送などの時間の連続帯の中で、背中をつつかれながら次の番組が控えている場合には、状況が異なる。

なかなか結論は出そうにないが、問題解決には死ぬまでかかりそうである。

元京都外国語大学教授 中川良雄

🥁 ブラジルでの日本語教師体験談 記事：細川康雄(豊村の義弟) 🥁

2024年3月からおよそ2年にわたり、ブラジルの最南部のリオグランデ・スル州イボチという町でJICA（国際協力機構）の日系社会ボランティアとして日本語教師をした細川康雄です。イボチは人口2万人ほどで90%がドイツから来た人々の小さな町ですが、日本人移民の社会がある町です。

ブラジルには戦前から戦後にかけて日本から多くの人々が移り住みました。当時は電気も水道もない中で森の木を切って住める場所を作ったり、現地の農園で働いたりしました。そして自分たちの家や畑をもつようになり、ブラジルの発展にも大きな助けとなりました。彼らは日系人と呼ばれ、いまでも1世のおじいちゃん、おばあちゃんの世代から孫、ひ孫の3世、4世の子どもや若者達にも続いています。ブラジルにいる日系人はおよそ200万人といわれ、最大都市のサン・パウロを中心に広いブラジル全土に日系社会を作っています。そこでは、昭和の日本を思い出させるような夏祭りや盆踊り、運動会等の各種お祭りやイベントなどが行われるとともに日本語学校もあります。



日本語学校の外観



日本語教室

日本語学校は地域によって様々で、サン・パウロ周辺のような日系人の多い地区では、日本と同じように毎日授業が行われるところもあれば、私が赴任した地区のように週1回、カルチャーセンターのように授業を行うところもあります。

日系人の多い地区では、生徒はほとんどが日系人の子供たちで普段の会話も日本語ですが、わたしの学校では生徒は日系人、ブラジル人混合で普段はポルトガル語で会話して、授業は日本語となります。

教科書は「まるごと 日本語」、ブラジル人は日本のアニメやゲームが好きで日本語に興味を持っている中学生から大人までの世代で、日系人は、子供たちに日本語や日本のマナーを学ばせたいというものです。といっても日系社会でも今や普段の会話はポルトガル語で将来日本に留学や就職を目標にするという人はあまりいません。ですから授業もいたってのんびりしていましたが、折角日本から行ったのだから、なるべく日本の文化、例えば習字や日本の歌、紙芝居などを取り入れるようにしました。

日本語のワークショップを開くと多くのブラジル人がひらがなや漢字を体験したいと集まります。時には独学で日本語を勉強しているという若者に出会うこともあります。ブラジル人はタトゥーが好きですが、「愛」という漢字をタトゥーにしている人も見ます。

ブラジルでは今、和太鼓がブームとなっており日系社会では必ず和太鼓チームが作られています。イボチでもたまたまですが、わたしが赴任した時期に和太鼓チームが作られ、わたしも参加して活動を後押ししました。和太鼓のチームメンバーは日本語学校の生徒が中心で、彼らが日本語以上に太鼓に魅せられたようで、徐々にメンバーを増やし、また他の地区の和太鼓チームとの交流やお祭りでのパフォーマンスなど積極的に活動するようになり、日系社会を盛り上げる核になりました。ある若者は将来太鼓を勉強しに

日本に行きたいと言うようになりました。

言葉の勉強は、それだけでは、なかなか根気のいるものですが、それに伴う活動や友人などができるとますます意欲がわいてくるものだと思います。今でも彼らの活動はスマホを通して見る事ができて、わたしも近ければ参加したい気持ちです。



生徒たちと先生（右端）



和太鼓チーム



私の地元 #9 豊村信良



私の故郷である長崎県佐世保市を紹介します。佐世保は明治時代に旧日本海軍の鎮守府（軍事や防衛の拠点）が置かれたところで、軍港として発展し現在も海上自衛隊や米海軍基地がある港街です。地理的には、湾のすぐ背面に山地が迫り坂の多い街でもあります。そのためかほとんど自転車を見かけません。ちなみに佐世保駅はJRで日本最西端の駅です。

代表する景勝地と言えば九十九島ですね。実際は99以上ある大小の島々が織りなす姿は展望台から見ると絶景です。映画「ラストサムライ」の冒頭の景色は九十九島でロケされたものです。

テーマパークではオランダの街並みを再現したハウステンボスがありますが、経営難から今やオランダとは関係ないものも取り入れています。数年前行った時はオランダの運河なのにゴンドラもクルーズしていた（それイタリアだろう）

市内には全長約1Kmもある連続一直線で日本一長いアーケード（商店街）があり、中高生時代、遊びや買い物によく行ったものでした。

海近なのでもちろん魚介類は新鮮でおいしい。知名度は低いですが佐世保の牡蠣は大粒でジューシー、比較的安価なのでカキフライや焼き牡蠣でよく食べていました。

近年、知られるようになったご当地グルメは佐世保バーガーでしょうか。実はマクドナルドが日本に上陸するはるか前、1950年ごろに米軍関係者からハンバーガーのレシピを教わり複数の個人商店が始めたのがきっかけです。

ご当地キャラクターは佐世保バーガーボーイとさせぼのボコちゃん（アンパンマンのやなせたかしさん作）

